地域が支える祭「なら燈花会」

NPO 法人 なら燈花巻の会 会長 山本 源生

1. 地域づくりの方針・目的

奈良には、古くからの伝統行事やまつりが、数多くあります。そのすべてが、社寺はもちろんのこと地元の人々が支え、育んできたからこそ今があります。なら燈花会も、単なるイベントではなく、奈良の地元の人々が支え合って、盛り上げて100年以上続く、夏の奈良の代表的なまつりに成長させたいと考えています。

2. 取り組み内容

世界遺産に囲まれた奈良公園一帯を、約一万五千個のろうそくの明かりで幻想的に演出する為、毎日お手伝いいただける当日ボランティア延べ約3000名の募集や、広報、警備、会場ごとの演出、設え、ライブの開催、来年のロウソク代の為の、募金活動やオリジナルグッズの販売、地元商店街や社寺との打ち合わせや折衝等、奈良公園や環境問題に配慮したリサイクルろうそくの再生…とにかくたくさんあります。

3. 苦労点・達成度等

たくさんの人に参加して頂くまつりですので、調整する事務方や、指導するリーダーがたいへんです。仕事を持ちながら会を運営していくむずかしさを感じております。

4. 効果・反響等

昨年70万人 今年60万人以上の来場者がありました。マスコミ関係にも、多々取り上げていただきました。毎年、たのしみにして来場していただくリピーターが多いのも燈花会の特徴です。 経済波及効果は25億円以上(地元経済センター発表)

5. 今後の課題等

少ない予算の中で、効果的な広報活動や会場の充実を模索しております。

又、ボランティアの募集や会員の管理、開催中の問い合わせ等、事務局の仕事が膨大で、数名では対応できないのが現状です。来場者増加に伴い警備、安全対策も充実していかなければなりません。そして何より大切なのが、地域の人々の燈花会に対する意識ではないでしょうか。この祭りは、夏の奈良には無くてはならないまつりなので、皆で支援しよう!支えていこう!そういった意識が、市民レベルで、根づくことが大切だと思います。

燈花会が、地域の人たちの奈良の夏の宝となりますように願って。



第7回「なら燈花会」来訪者数

開催期間 平成17年8月6日(木)~15日(土)

点 灯 午後7時~午後9時45分

会 場 奈良公園一帯 (猿沢池と五十二段、浮見堂と驚池、浅 茅ヶ原、浮雲園地、国立博物館、春日野園地、東大寺、 14・15日のみ春日大社参道)

来訪者数 <u>約 602,000人 (10日間)</u> 来訪者最多日 平成17年8月15日(日)152,000人

参考 過去の来訪者数

平成11年来訪者数 170,000人(9日間) 平成12年来訪者数 305,000人(10日間) 平成13年来訪者数 280,000人(9日間) 平成14年来訪者数 390,000人(10日間) 平成15年来訪者数 355,000人(7日間)

平成16年来訪者数 704,000人(11日間)

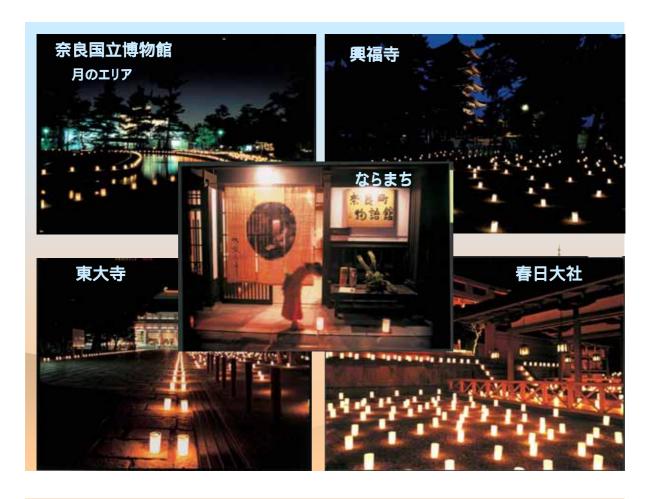
会場点灯風景











春日野園地 燈花茶(とうかふぇ)





ろうそくの点火まで





各担当に分かれて仕事









イベント









販促グッズ



事前準備





カップ洗い カップ袋詰め



他に 協賛金集め、サポーター集め、ポスター 張り・のぼり設置 etc.